

やさしい旅ヘルプ

新幹線が滑るようにプラットホームに入ってきた。ホーム柵にやや遅れて車両扉が開くと、慣れた手つきで駅員がスロープ板を渡した。

車内の多目的室まで笑顔で案内してくれる。車いす利用者に限らず、具合の悪い人や授乳、おむつ交換など、さまざまな用途で使えるスペースだ。すぐそばには、広くなったバリアフリートイレもある。座席には車いす向けのスペースも確保されている。鉄道も設備改良でこうしたユニバーサルデザインへの配慮が見られるようになった。利用者が多い駅舎ではバリアフリー化の工事がほぼ終わり、お年寄りや障害を持つ人だけでなく、ベビーカーを使う人

進む鉄道のバリアフリー



誰でも使える新幹線の多目的室

や大きな荷物を抱えた人も利用しやすくなった。複雑な構造の駅舎では、分かりやすい表示も重要だ。駐車場や停車場からのアプローチも大切な動線の確保で、こうしたポイントにも配慮した整備が待たれる。

鉄道の旅には交通工コ
ロシー・モビリティ財団
が提供しているホームペ
ージ「らくらくおでかけ
ネット」が便利で、全国
のバリアフリー情報を調
べることができる。

この10年で鉄道サービ
スのバリアフリー化は大
幅に改善され、特筆でき
るのは駅員らの対応が向
上したことだ。ただ、車
いす利用者などにとって
は大変な手間となる乗車
券予約購入時の障害者手
帳の提示義務など、ソフ
ト面で改善してほしいと
思う点もまだある。

さらにホーム柵の設置
なども求められている
が、こうした整備は時間
も費用も掛かる。使う側
も十分注意が必要だし、
周囲にいる人の配慮や助
けが大切だ。

車いす利用者の中には
多くの鉄道ファンがい
る。かつて「夢の超特急」
と呼ばれた車両は代替わ
りの時を迎え、技術の進
歩はさらに夢を膨らませ
る。見るもよし、撮るもよ
し、さらに聞くもよしと
いうのが鉄道ファンだ。

国のバリアフリー新法
は、高齢者や障害者が自
立した生活を営むことが
できる社会を構築するこ
とが重要とし、鉄道もバ
リアフリー化の重点項目
の一つだ。体が不自由にな
っても、大好きな鉄道
旅行はいつまでも自由に
できる社会でありたい。

ソフト面でも改善を

(日本トラベルヘルパー
協会理事長・篠塚恭一)